

団結の証し 258人で絵パネル



花などの絵を貼って栗原北小での思い出を共有したパネル

尾道 栗原北小生と教職員合作

尾道市栗原町の栗原北小で18日、全校児童と教職員計258人の絵を貼り合わせたパネルが完成した。新型コロナウイルス禍で行事の縮小を余儀なくされる

中、団結の証しを残そうと花や校舎を描いた。ヒマワリや校舎の時計など、思い思いの絵を約10センチの板にオイルパステルで描写。180センチ四方のパネ

ルにそれぞれ貼り、「笑顔あふれる学校」とメッセージを添えた。校舎階段の踊り場に飾る。

コロナ禍では学校が再開されても、運動会の縮小や修学旅行の日帰り変更など影響は大きかった。6年生が「全学年で共有できる思い出をつくりたい」と絵の制作を提案。図工を指導す

るチョークアート作家大原郁香さん(33)＝向東町＝が教えた描き方を上級生が同じ班の下級生に伝え、各板の配置も一緒に練った。

6年松岡柚希さんは「下級生の『上手に描けた』という反応がうれしかった。卒業記念の思い出になる」と話した。

(田中謙太郎)